

大分合同新聞

OITA GODO NEWSPAPER

きょうの天気

午前	午後	夜
北部 降水確率 10% 気温 19~30℃	中部 降水確率 10% 気温 21~29℃	
西部 降水確率 20% 気温 19~34℃	南部 降水確率 20% 気温 20~27℃	

詳しい天気は3面をご覧ください



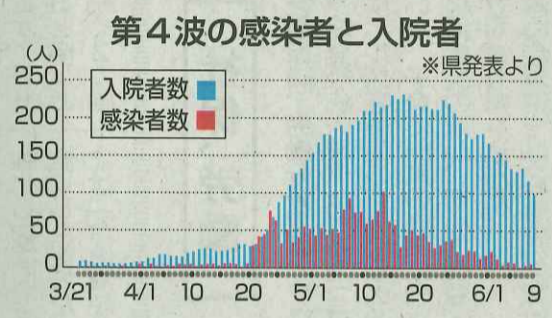
医療現場「緩み」に警鐘

大分県内の新型コロナウイルス「第4波」はピークを脱したもようだが、医療関係者は「再拡大」への警戒を崩していない。治療中の入院患者はすでに減るわけではなく、緊張が張り詰める医療現場の負担は重い。感染経路が分からない陽性者も確認されており、治療に当たる医師は「ここで気を緩め過ぎると、元通りどころか、さらに深刻な事態を招きかねない」と警鐘を鳴らす。

県内の専用病棟 人手は3倍



ベッドに横たわった重症患者を診る医療スタッフ。病棟内での処置は3〜4時間にわたり「防護服の中は汗びっしょりになる」と岸建志医師(県厚生連鶴見病院提供。写真は一部加工しています)



新型コナ

依然、負担は重く



「ここで気を緩め過ぎると、さらに深刻な事態になりかねない」と警鐘を鳴らす岸建志医師(別府市鶴見、撮影・百崎浩嗣)

感染症指定医療機関の県厚生連鶴見病院(別府市鶴見)は14床の専用病棟を設け、患者を受け入れている。呼吸器内科部長の岸建志医師(54)は「コロナは通常の診療とは違う。感染対策を徹底しながらの対応は負荷が大きい」と明かす。

専用病棟では、病室を行き来する医療スタッフ全員が防護服と帽子、手袋、マスク、ゴーグルを着用している。感染を防ぐため用具は全て使い捨て。入室ごとに着替えなければならず、一般病棟に比べて3倍以上の人手を割いている。感染者が急増した第4波では、症状がより重い患者も受け入れた。病状の急変に備え、モニターや心電図から目が離せず、気の休まる時間はない。

「寝たきりの高齢者など、治療だけでなく食事の介助など介護ケアも加わる。とにかくスタッフが足りない。感染拡大で最大12床が埋まり、医師がコロナ対応に追われ、一部の外来診療を断らざるを得なかった。ぎりぎりの状況下で地域医療を守っている。県などが発表する新型コロナウイルスの新規感染者はここ6日間、1桁台で推移。ピークだった5月14日の102人から大きく減少したが、治療に一定の期間を要する入院患者は同じように減るわけではない。

9日時点の入院患者数は99人。県全体の病床利用率は22.6%で、感染状況を判断する指標で見ると、依然として上から2番目の「ステージ3」(20%以上50%未満)の水準にある。県は感染拡大を封じ込めるため、13日までの期限内で不要不急の外出自粛、飲食店の時短営業を要請している。「感染者が減ったのは効果の表れ。気を緩め過ぎると再び拡大する可能性がある」と岸医師は言う。

第4波は変異株に置き換わったことで感染が急拡大した。「3密」ではなくても「1密」だけで感染は成立する。感染者が1人、2人でも、そこから10人、20人と広がっていく。変異株にはそれだけのポテンシャルがある」と指摘する。

国のまとめでは、県内のワクチン接種率(1回目)は8日時点で9.12%。岸医師は「ワクチンが行き届けば状況は違ってくるはず。もうしばらくは辛抱してほしい」と訴えている。

(2)岸啓太郎、百崎浩嗣

10月11月に接種完了

党首 首相が目標明言

菅義偉首相は9日の党首討論で、新型コロナウイルスのワクチン接種について「10月から11月にかけて、必要な国民について全て接種することを実現したい」と表明した。接種回数は月末までに4千万回を超える見通しだと強調。東京五輪・パラリンピックでコロナ克服を世界に発信すると、開

と批判し、政権交代が必要だと主張した。

(3面に関連記事)

希望する国民全員への接種完了目標を首相が明言したのは初めて。自ら掲げた1日100万回の接種に関する「8日は超えた」と主張、感染症対策は「ワクチンが出てから大きく変わった」と自信を見せた。



共産党の志位和夫委員長は五輪を開催する理由を追及。首相は「国民の命を守

各地で気温が上昇した。日田市は最高気温が全国2位の35.1度(平年28.3度)

日傘を差して「連撃の巨人」のリヴァイ像を見学する観光客。9日午後2時49分、日田市元町の日田駅前広場、撮影・刀根徹朗

10日の県内は高気圧に覆われて気温が高くなるが、夕方から気圧の谷や湿った空気の影響で次第に曇りとなる。

県内の各消防本部・局によると、午後10時現在、熱中症の疑いで屋外作業をしていた竹田市の80代女性が病院に運ばれた。命に別条はなかった。(高木大誠、刀根徹朗、宗岡博之)

12「温人リレー」で魅力を発信

泉都の魅力をPRする「べっぷの温人リレー」とは？ 別府市で活躍する魅力的な人物を「温人」と命名。リレー形式で人物を紹介する動画を発信する。

22「田んぼダム」で氾濫を防御

大雨時に水をためて河川氾濫を防ぐ田んぼダムの実証実験が由布市で始まった。田んぼの水位を保ち、堤防やダムだけに頼らない地域ぐるみの流域治水につなげる。

23猫駅長「ニャー」突然の別れ

JR豊後竹田駅の名物猫駅長「ニャー」が死んだ。乗降客を出迎えるのが日課で、観光客や竹田市民から人気だった。お別れの会があり、関係者が功績に感謝した。

加判衆志賀氏④ 志賀氏で有名な人は誰なの？

どのページかな? こたえをさがしてね

②政府が骨太方針案を提示
⑬終わらぬ日田の快「進撃」
⑱大分2チーム2回戦突破
⑳建設石綿給付金法が成立

紙面へのご意見・お問い合わせ・情報のご提供
読者応答室 TEL.097-538-9640 (平日9:30~16:30)

アプリ、サイト 公開中!

オオ!エス! OITA SPORTS

大分県のスポーツを応援します!
<https://os-oita.com/>